

Title	わが国の公定歩合の変更が外国為替レートに及ぼす効果
Sub Title	
Author	笹森利彦(Sasamori, Toshihiko) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0201

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	笹 森 利 彦	主査	村 井 俊 雄
	(株式会社 三菱銀行)	副査	関 谷 章
所属ゼミナール	鈴 木 貞 彦 研		鈴 木 貞 彦

わが国の公定歩合の変更が外国為替レートに及ぼす効果

日本経済と世界経済との結びつきは日を追うごとに深くなっていく。貿易取引ばかり資本取引ばかりである。これら日本経済と世界経済を結びつけるKEY・FACTORが外国為替レートであり、主に円と米国ドルとの交換比率ではなかろうか。このように円の為替相場の重要性が認識されはじめるにつれて、為替変動に関する研究も盛んに行なわれるようになってきた。為替変動をもたらす要因は、内外金利差、石油価格、政治情勢、中央銀行の介入態度他多数存在するが、この論文に於いては、その中でもとくにわが国の公定歩合の変更が市場にどのように受けとめられ、その結果として円相場にどのような効果を及ぼしているのかを観察している。

その結果としては、一口に公定歩合の変更といっても、円相場に及ぼす効果というものには引き上げと引き下げとは異なるということである。すなわち、引き下げは平均的にみれば円相場にほとんど何んの効果も及ぼしていないという結論が導かれるのに対して、引き上げではその効果が認められる。この理由は公定歩合の引き上げというものは周国の、特に財界・産業界等からの、強い圧力や批判を受け易く、日銀としても市場が予想する幅ほど大きく変更しにくい。その結果、市場は現実の引き上げ幅に不満を抱き、それが為替レートに効果を及ぼすからであると考えられる。